

居場所論の「現在」

日時 2016年12月3日(土)13:30~18:00

場所 上智大学四谷キャンパス 上智紀尾井坂ビル-B210
(JR四ツ谷駅徒歩10分)

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/map/map_yotsuya

主催 上智大学総合人間科学部教育学科
(教育イノベーション・プログラム)

参加費 500円(資料・お茶代)

※上智大学学生・院生・教職員は無料



「居場所」という日常的な用語が政策文書に登場したのは、1992年に文部省から出された不登校対策の報告書でした。その後、居場所に関する書物は増加し、心理学、教育学、社会学などの学術書にも登場するようになります。居場所論が広がる背景には、経済や情報のグローバル化が急速に深まりをみせるなかで、家族・地域・会社・国といった従来、人々に安心と安全を保障してきた集団や組織によるセーフティネットが縮小し、人々を孤立化させていることが原因であると思われます。

居場所づくりは実践や政策においても、子どもの貧困、災害復興、高齢者の地域参加などにおいて、鍵となる概念になりつつあります。また、欧米での移民問題やアジア諸国でのテロ問題でも、若者の居場所が注目されています。この度さまざまな分野で居場所論を研究し、居場所づくりの実践に携わっている皆さまにお集まりいただき、交流する場として本フォーラムを企画いたしました。皆さまのご参加を期待しています。



<プログラム>

趣旨説明 田中治彦(上智大学総合人間科学部)

第Ⅰ部 日本の子ども・若者と「居場所」

コーディネーター 阿比留久美(早稲田大学)

報告1 千代田区に貧困家庭の子どものための居場所を作りました—NPO法人MLT子どもプロジェクトの現状と課題
久田満(上智大学総合人間科学部)

報告2 支援としての「居場所」を考える
—〈承認する／教育する〉のジレンマ
御旅屋達(東京大学社会科学研究所)

報告3 「いつでも・誰でも・無料で」来られる居場所づくり—冒険遊び場の実践からの学び
森川和加子(せたがや子ども・ワカモノねっと)

第Ⅱ部 グローバリゼーションと「居場所づくり」

コーディネーター 萩原建次郎(駒沢大学)

報告4 ダッカでのテロ事件と若者の居場所づくり
筒井哲朗(一般社団法人シェア・ザ・プラネット)

報告5 トランスナショナル状況下の欧州ムスリム移民の居場所づくり

丸山英樹(上智大学グローバル教育センター)

報告6 居場所とゆとり——社会変動論的視座から
塩原良和(慶応義塾大学法学部)

(終了後、同会場で懇親会をもちます。ふるってご参加ください)

お申込みとお問合せ

田中治彦研究室 ibasho.sophia@gmail.com

Fax 03-3238-3654

<タイムテーブル>

13:00 開場

13:30-13:50 **趣旨説明** 田中治彦（上智大学総合人間科学部、生涯教育学）

第Ⅰ部 日本の子ども・若者と「居場所」

コーディネーター 阿比留久美（早稲田大学）

13:50-14:20 報告1 千代田区に貧困家庭の子どものための居場所を作りました

—NPO 法人 MLT こどもプロジェクトの現状と課題

久田満（上智大学総合人間科学部）

14:20-14:50 報告2 支援としての「居場所」を考える—〈承認する／教育する〉のジレンマ

御旅屋達（東京大学社会科学研究所）

14:50-15:20 報告3 「いつでも・誰でも・無料で」来られる居場所づくり

—冒険遊び場の実践からの学び

森川和加子（せたがや子ども・ワカモノねっと）

15:20-15:40 質疑と議論

第Ⅱ部 グローバリゼーションと「居場所づくり」

コーディネーター 萩原建次郎（駒沢大学）

16:00-16:10 課題の整理

16:10-16:40 報告4 ダッカでのテロ事件と若者の居場所づくり

筒井哲朗（一般社団法人シェア・ザ・プラネット）

16:40-17:10 報告5 トランスナショナル状況下の欧州ムスリム移民の居場所づくり

丸山英樹（上智大学グローバル教育センター）

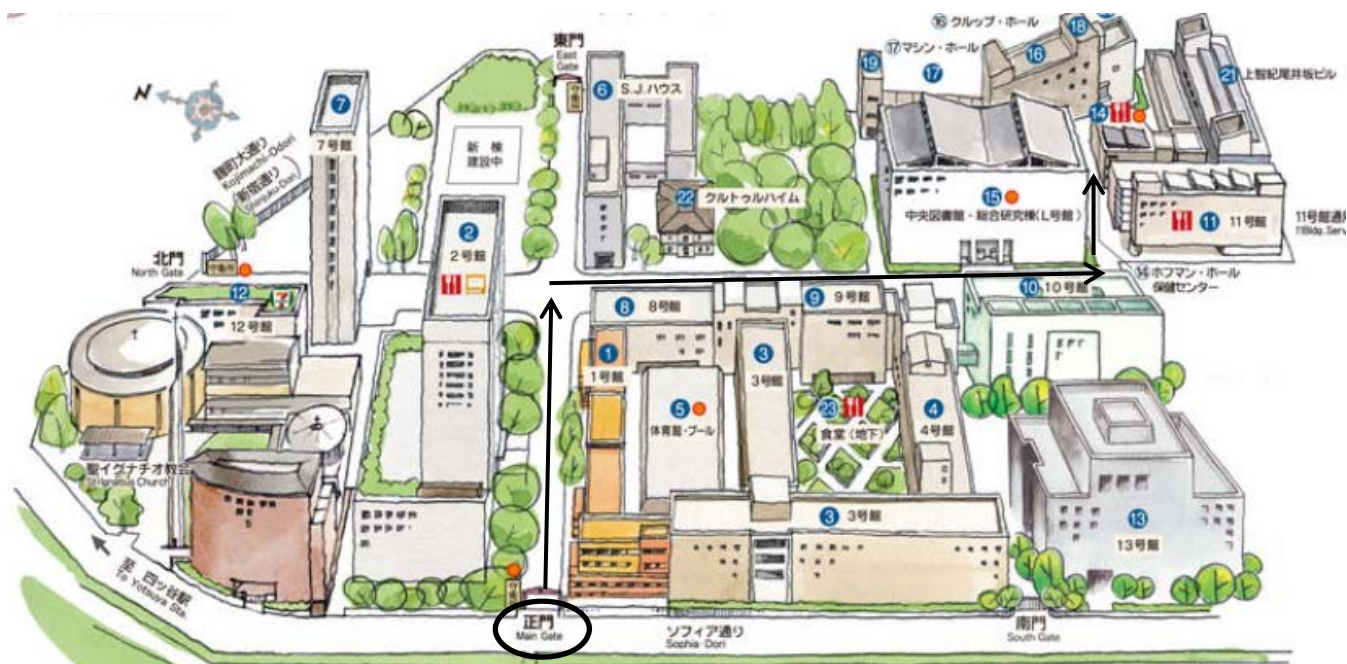
17:10-17:40 報告6 居場所とゆとり——社会変動論的視座から

塩原良和（慶応義塾大学法学部）

17:40-18:00 質疑と議論

（終了後、同会場で懇親会をもちます。ふるってご参加ください。）

<会場アクセス>



※当日は、大学構内には正門よりお入りください。